

# 地域で見守る子育で! 子育ち!

## しつけと虐待

「頭でわかっているけど、子どものやることにイライラする。」「言うことを聞かないと子どもを叩いてしまう。」という悩みを持つ人が増えているようです。育児をしていくうえで、しつけの悩みは尽きませんよね。子どもへのしつけは、「社会のルールやマナーを教える」、「自立して生きていくために必要なことを教える」などが目的です。その基本は、愛情をもって、子どもに理解させながら繰り返し教えることで、叱ることだけでは身につかないのです。

一方、虐待とは子どもの成長や気持ちも考えずに、親自身の欲求や要求を満たすために子どもを従わせようとする行為で、子どもの心身を傷つけ、健全な成長、発達を損なうものです。

確かに、しつけと虐待の境界線はとても難しいものです。しかし、しつけだからといって、暴力をふるってもよいということはありません。最初、しつけのつもりで子どもを叩いても、いつの間にか子どもを叩くという行動がくせになってしまい、子どもも叩かれるまで、親の言うことを聞こうとしなくなります。

また、親自身が、自分の態度を正当化するために、子どもに対して「お前が悪いことをしたから」とか「言うことを聞かないから」などと言っても、理由にならないのです。どんな形であれ、子どもにとっては暴力を受けていることに変わりはないのです。

だれもが葛藤し、悩みながら子育てをしています。決してひとりで悩みを抱え込まないでください。いっしょに考えてくれる人がいると、随分気持ちが楽になります。「どうしたらいいんだろう?」と困ったり、悩んだときは、月に1回開催している「あかちゃんプチさろん」や「育児相談」へ参加してみましょう。また「なんでも健康相談」では、電話などで相談を受けていますので、保健福祉グループへ気軽に相談してください。

**子どもたちの育ちを、地域で見守っていきましょう。**

問合せ先 いきいき広場内保健福祉グループ ☎52-9871



コラム

## 認知症とこれから

今月のテーマ

「体調管理が難しい」

「記憶がない」というのは健康管理にも大きく影響します。私たちはふだん、お昼を食べすぎたから夕食は控えめにするとか、何日お通じがないから野菜を多く摂るとか、自分の体調を把握し対応しています。認知症の人は最近のことを覚えていないので、いつから調子が悪いのか、どうして悪いのかを忘れてしまったり、同じものを続けて食べたり、季節に合わせて衣類を調節できなかつたりと体調をよい状態に保つための対応が難しくなります。

先月、介護のコツを紹介して下さったKさんは、薬の管理に苦慮されたそうです。

お義母さんは薬を飲んだことを忘れてしまい、時間を空けて飲まなければいけない薬を何度も飲んでしまうので、よけいに調子を悪くしたり、栄養ドリンクを何本も飲んでしまうことがあったそうです。Kさんは、家族が薬を手渡するようにし、置き薬は隠しておいたそうです。

便秘や不眠などの体調不良が認知症状を強めることもあります。ちょっとした変化、体調を悪くしている原因に周囲が気付き、対応していく必要があります。ときには受診が必要になることがありますので、ふだんのようにすをかかりつけ医に相談しておきましょう。

認知症についての相談、認知症家族の会に関する問合せはコチラへ

高浜市地域包括支援センター  
(いきいき広場2階) ☎52-9610